

2020年

10月11日(日)

14:00 ~ 16:00

オンライン開催

日本学術会議 公開シンポジウム

Withコロナの時代に考える人間の

「ちがひ」と差別 ～人類学からの提言～

趣旨：新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミックの中、社会の各所で、他者や他集団に対する差別や排除が表面化しています。その象徴的な出来事として、米国での黒人暴行死をきっかけにブラック・ライブズ・マター(BLM)運動が世界中に広がりましたが、このような差別は全ての社会に潜む、私たち一人一人の問題です。この古くて新しい問題に、私たちはどう向き合うべきなのでしょう？ 人間の「ちがひ」とは何か？ 差別解消に近づく糸口はあるのか？ 人間が人間として共有すべき価値観とは何か？ 本シンポジウムでは、こうした人間の「ちがひ」と差別をめぐる問題について、文理両サイドの人類学者が一堂に会し、考えます。

参加申込：無料。どなたでも参加できます。
10月9日(金)までに以下のサイトから事前申込をお願いします。または右の二次元バーコード、日本学術会議公開イベントページからもお申込可能です。
<https://reurl.cc/7ok7a1>

プログラム

14:00 開会あいさつ：山極壽一*

(日本学術会議 前会長)

14:10 第一部 講演 司会：窪田幸子* (神戸大学)

横浜中華街から考えるゼノフォビア (外国人嫌悪)

陳天璽 (早稲田大学)

健康希求行動が生み出す差別

増田研 (長崎大学)

感染症と人類 ―ゲノム研究の視点から

徳永勝士* (国立国際医療研究センター)

BLM運動から考える身のまわりの人種差別

竹沢泰子* (京都大学)

差別をどう乗り越えるのか ―人類史の視点から

海部陽介 (東京大学)

15:20 第二部 パネル討論 司会：高倉浩樹** (東北大学)

パネリスト：山極壽一*

中谷文美* (岡山大学)

斎藤成也* (国立遺伝学研究所)

松田素二* (京都大学)

16:00 閉会

*日本学術会議連携会員 **日本学術会議会員



主催：日本学術会議 地域研究委員会、文化人類学分会、多文化共生分会
生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類学分会
後援：日本文化人類学会、日本人類学会
協力：科研費基盤(S)「人種化のプロセスとメカニズムに関する複合的研究」

詳細情報：「竹沢泰子研究室」トップページ
お問合せ：jinruisympo@gmail.com
2020人類学合同シンポジウム組織委員会